

# 環境経営レポート

有限会社 朝日鍍金工場

発行日 2019年4月11日

活動期間2018年1月1日～12月31日

《ご挨拶》

経営の中に環境活動を取り入れたエコアクション21を取得して10年が経過しました。この間、リーマンショック、東日本大震災、超円高等が次から次へと日本経済を襲い、かつてない厳しい状況の中での取組みとなりました。取組み当初は、戸惑いもありましたが11年目に入り、社員全員にエコアクション21の意識が浸透し、成果は確実に上がってきています。2018年は、近隣の同業者の廃業により新規の受注が増えており、これまでの積極的な設備投資が功を奏したと言えると思います。生産量が増えているので、電気、ガス、水使用量も増える傾向にありますが、しっかり目標を掲げ、その達成に向け取組んでいきたいと思っています。引き続きご指導を賜りますようお願いいたします。

有限会社 朝日鍍金工場  
代表取締役 遠藤 清孝



《目次》

- I 環境方針
- II 事業概要
- III EA21推進体制
- IV 環境目標とその実績                   2018年度
- V 環境目標                   2018年度 2019年度 2020年度
- VI 環境活動の問題点と是正処置           2018年度
- VII 環境関連法規制の遵守状況
- VIII 代表者による全体評価と見直し結果

# I 環境方針

朝日鍍金工場は、地球環境保全の重要性を認識したうえで  
良いめっき製品づくりに徹しお客様に喜んでもらうことを基本理念  
とし社会が豊かで幸せになるために未来に向かって環境尊重  
企業をめざします。

1. 当社は、めっき加工の生産活動において環境に与える影響  
を考慮して、環境目標を設定し、環境マネジメントシステムを  
構築し、継続的改善を図ります。
2. 環境に関する法規制を遵守し汚染の予防に努めます。
3. 環境負荷の少ない生産工程の構築に努め省エネルギー、節水  
、省資源・リサイクル促進による廃棄物の低減、及び化学物質  
の適正管理と低減を図ります。
4. 環境保全活動に関する社内教育を行い、周知徹底し、環境  
に関する意識向上を図ります。
5. この環境方針は要求により社外に公表します。

2009 年 1 月 1 日

有限会社 朝日鍍金工場

## Ⅱ 事業概要

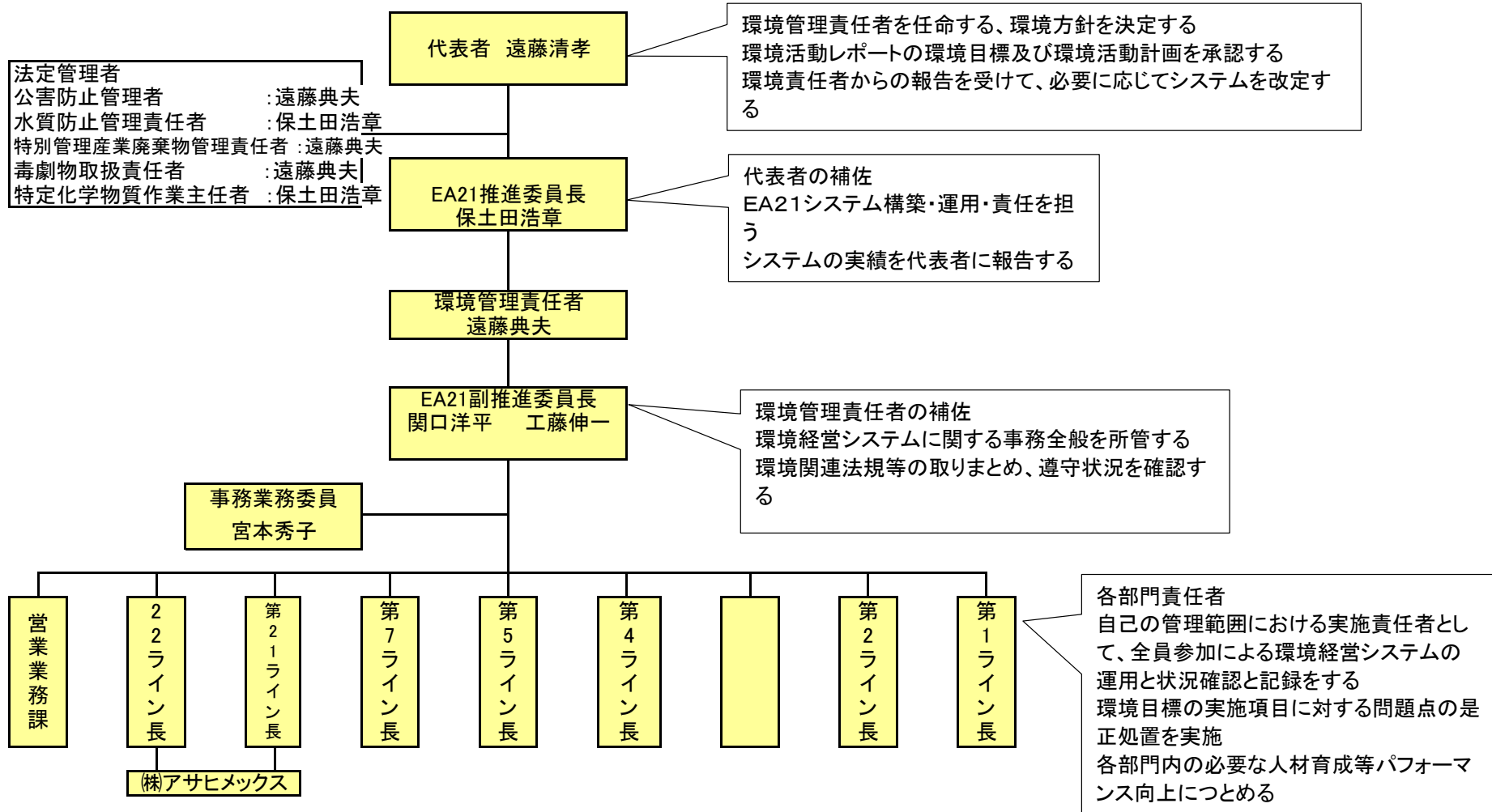
- (1) 事業所名 有限会社朝日鍍金工場
- (2) 代表者名 遠藤 清孝
- (3) 所在地  
本社 〒132-0025 東京都江戸川区松江4-20-11  
第2工場 〒132-0025 東京都江戸川区松江4-3-14  
倉庫 〒132-0025 東京都江戸川区松江4-26-19
- (4) 環境管理責任者指名及び担当者連絡先
- |          |  |       |
|----------|--|-------|
| ・推進責任者   | 代表取締役  | 遠藤清孝  |
| ・環境管理責任者 | 常務   | 遠藤典夫  |
| ・推進委員長   | 副工場長   | 保土田浩章 |
| ・推進副委員長  | 2ライン長  | 関口洋平  |
|          | 営業業務   | 工藤伸一  |
| ・推進事務委員  |  | 宮本秀子  |
| ・連絡先     |  |       |
|          | TEL 03-3653-3431   |       |
|          | FAX 03-3652-2225   |       |
|          | E-mail <a href="mailto:endok1@sepia.ocn.ne.jp">endok1@sepia.ocn.ne.jp</a>  |       |
|          | HP-URL <a href="http://www.asahi-mex.co.jp">http://www.asahi-mex.co.jp</a> |       |
- (5) 事業活動内容(認証登録範囲)
- ・電気亜鉛めっき加工
  - ・溶融亜鉛めっき加工
- (6) 事業規模
- ・設立 1960年(昭和35年)
  - ・出資金 3600万円

	単位	2016年	2017年	2018年
売上高	百万円	634	651	725
従業員数	人	51	52	55
作業場面積	m <sup>2</sup>	2600	2600	2600

- (7) 事業年度 1月～12月

# Ⅲ EcoAction21推進体制 有限会社 朝日鍍金工場 環境組織図

2019年1月1日



※営業業務課及び各ライン長を持って推進委員会とする

全従業員 55名

## IV 環境目標とその実績 2018年度

### (環境負荷実績と環境目標比較)

前年2017年度(1/1~12/31)を基準年とし環境負荷数を算出し、2018年度目標値と実績値より検証を行う。2018年度の目標は2017年度の実績値を加味して定めた。

#### 1. 主な環境目標と環境負荷・実績

##### <主な環境目標>

項目	単位	2017年度 基準年	2018年度 目標値	2017年度 目標削減率	
CO2総排出量	kg-CO2	1,292,275	1,290,252	0.2%減	
電気使用CO2排出量	kg-CO2	532,413	532,413	±0	
都市ガスCO2排出量	kg-CO2	623,134	623,134	±0	
灯油CO2排出量	kg-CO2	35,646	35,646	±0	
ガソリンCO2排出量	kg-CO2	21,555	21,124	2%減	
軽油CO2排出量	kg-CO2	54,973	53,873	2%減	
LPGガスCO2排出量	kg-CO2	24,554	24,062	2%減	
水資源使用量	m3	40,250	40,250	±0	
産業廃棄物排出量	t	367	367	±0	
一般廃棄物排出量	t	24.5	24.5	±0	

##### <実績値>

【評価】○:達成 ×:未達成

項目	単位	2018年度 目標値	2018年度 実績値	削減率	評価
CO2総排出量	kg-CO2	1,292,275	1,353,576	4.7%増	×
電気使用CO2排出量	kg-CO2	532,413	581,345	9.2%増	×
都市ガスCO2排出量	kg-CO2	623,134	644,486	3.4%増	×
灯油CO2排出量	kg-CO2	35,646	33,153	7.0%減	○
ガソリンCO2排出量	kg-CO2	21,555	19,692	8.7%減	○
軽油CO2排出量	kg-CO2	54,973	47,946	12.8%減	○
LPGガスCO2排出量	kg-CO2	24,554	26,954	9.8%増	×
水資源使用量	m3	40,250	43,084	7.0%増	×
産業廃棄物排出量	t	367	405.1	10.3%増	×
一般廃棄物排出量	t	24.5	27.1	10.6%増	×

		17年実績値	18年実績値	削減率	評価
めっき不良再めっき品	金額	2,921千円	3,579千円	22.5%増	×

\* 2009年度より再めっき品のデータを作成する

##### 【評価】

基準年を前年の2017年として目標値を設定した。2018年のCO2の排出量は削減目標0.2%減に対して、4.7%増となり目標を達成することができなかった。近隣の同業者の廃業により自動車など新規の受注が大幅に増え、売上高も6.8%増になっており、それに伴い電気、ガス、水使用量はそれぞれ大幅に増えている。あわせて製造業務に使用するフォークリフトの運転時間も増えたためLPGガスも増加している。灯油は乾燥の効率化を図りジェットヒーターの使用時間を極力減らしたことにより減少した。また、営業面では納品、引き取りが増える中、トラック配送便の効率化を進め、軽油使用量が大幅に減少した。2018年度の項目別取り組みで最も評価できる項目である。めっき不良による再めっきは21ラインにおいて大量に発生した。脱脂液の温度、濃度管理の重要性を認識することが大事である。

# 環境目標

作成日2018年1月1日

代表取締役遠藤清孝

環境方針 キーワード	環境目標項目	基準値 (2017年度)		年度毎目標・達成手段		
				2018年度	2019年度	2020年度
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素排出量削減	532,413kg-Co2	目標	17年実績 (532,413kg-Co2)	17年実績 (532,413kg-Co2)	17年実績 (532,413kg-Co2)
			達成手段	事務所、食堂、更衣室の蛍光灯を順次省エネタイプ(設置率50%) 最大需要電力を下げる	事務所、食堂、更衣室の蛍光灯を順次省エネタイプに(設置率60%) 最大需要電力を下げる	事務所、食堂、更衣室の蛍光灯を順次省エネタイプに(設置率60%) 最大需要電力を下げる
	都市ガスの二酸化炭素排出量削減	623,134kg-Co2	目標	17年実績値 (623,134kg-Co2)	17年実績値 (623,134kg-Co2)	17年実績値 (623,134kg-Co2)
			達成手段	蒸気配管の漏れなどのチェック 各槽の設定温度の再見直し 1ライン1ボイラーの効果の推進	蒸気配管の漏れなどのチェック 各槽の設定温度の再見直し 1ライン1ボイラーの効果の推進	蒸気配管の漏れなどのチェック 各槽の設定温度の再見直し 1ライン1ボイラーの効果の推進
	灯油の二酸化炭素排出量削減	35,646kg-Co2	目標	17年実績 (35,646kg-Co2)	17年実績 (35,646kg-Co2)	17年実績 (35,646kg-Co2)
			達成手段	ジェットヒーターの無駄のない燃焼	ジェットヒーターの無駄のない燃焼	ジェットヒーターの無駄のない燃焼
	ガソリンの二酸化炭素排出量削減	21,555kg-Co2	目標	2%減 (21,124kg-Co2)	2%減 (21,124kg-Co2)	2%減 (21,124kg-Co2)
達成手段			公共交通機関を使用して営業活動 さらにエコドライブの徹底	公共交通機関を使用して営業活動 さらにエコドライブの徹底	公共交通機関を使用して営業活動 さらにエコドライブの徹底	
軽油の二酸化炭素排出量削減	54,973kg-Co2	目標	2%減 (53,873kg-Co2)	2%減 (53,873kg-Co2)	2%減 (53,873kg-Co2)	
		達成手段	効率の良い配送計画 さらにエコドライブの徹底	効率の良い配送計画 さらにエコドライブの徹底	効率の良い配送計画 さらにエコドライブの徹底	
LPGガスの二酸化炭素排出量削減	24,554kg-Co2	目標	2%減 (24,062kg-Co2)	2%減 (24,062kg-Co2)	2%減 (24,062kg-Co2)	
		達成手段	フォークリフトの減車を実施する。	フォークリフトの減車を実施する。 5台→4台	フォークリフトの減車を実施する。 5台→4台	
節水	水資源投入量の削減	上水道 27,522m <sup>3</sup> 工業用水 9,882m <sup>3</sup> 合計 40,250m <sup>3</sup>	目標	17年実績 (40,250m <sup>3</sup> ) *合計	17年実績 (40,250m <sup>3</sup> ) *合計	17年実績 (40,250m <sup>3</sup> ) *合計
			達成手段	各水洗水の適正使用 各ラインでの水の再利用を検討する。	各水洗水の適正使用 各ラインでの水の再利用を検討する。	各水洗水の適正使用 各ラインでの水の再利用を検討する。
廃棄物の削減	産業廃棄物の削減	367t	目標	17年実績 (367t)	10%減 (330.3t)	10%減 (330.3t)
			達成手段	スラッジの含水率を低くする	スラッジの含水率を低くする	スラッジの含水率を低くする
一般廃棄物の削減	24.5t	目標	17年実績値 (24.5t)	17年実績値 (24.5t)	17年実績値 (24.5t)	
		達成手段	梱包資材の見直し 精度の高いデータを基に活動の促進	梱包資材の見直し 精度の高いデータを基に活動の促進	梱包資材の見直し 精度の高いデータを基に活動の促進	
低率不減の良	めっき製品不良率の低減	再鍍金品めっき単 2,921千円	目標	不良率 10%減	不良率 10%減	不良率 10%減
			達成手段	不良原因の究明とQC活動の推進 不良治具の新規更新	不良原因の究明とQC活動の推進 不良治具の新規更新	不良原因の究明とQC活動の推進 不良治具の新規更新
	グリーン購入			CO2削減対応薬品の使用	CO2削減対応薬品の使用	CO2削減対応薬品の使用
	環境にやさしいめっき製品			6価から3価クロメートへお客様へ提案	6価から3価クロメートへお客様へ提案	6価から3価クロメートへお客様へ提案

## VI 環境活動の計画と評価 2018年度

有限会社朝日鍍金工場

		電気使用量の削減 17年度実績を目標	評価
二酸化炭素の削減	[実施事項] ・事務所、食堂の空調温度の設定見直し(夏28℃、冬20℃) ・事務所、食堂に温度計を設置し室内温度を把握する ・事務所、食堂、更衣室、作業場の蛍光灯を順次省エネタイプに変えてゆく(HF型) ・作業場の水銀灯をLED照明に変えていく ・作業場において不要な照明の消灯の徹底 ・エレベーターの一人乗り禁止 ・めっき整流器の小型化を進める。1槽1電源を進める。		工場内照明を水銀灯からLED照明への切替をさらに進める。 朝日鍍金の変電所のトランスを一部アサヒメックスに切り替えた。 大型ディスプレイのデマンドメータ表示の最大需要最大電力目標値を410 KWとする。 【評価】×
		都市ガス使用量の削減 17年度実績を目標	評価
	[実施事項] ・脱脂、湯洗の設定温度の見直し(第1、第7ライン設定温度60℃→55℃) ・蒸気配管保温材チェック(保温カバーのない箇所) ・天気の良い日は、自然乾燥を多用する。 ・1ライン1ボイラーとする。 ・高温タイプの脱脂剤から低温タイプの脱脂剤への検討をする		溶融ラインの生産量が増え、ガスの使用量が増加した。 脱脂剤を高温タイプから低温タイプへの切り替えはおおきな効果が見込める。 【評価】×
節水		LPG、灯油、ガソリン、軽油使用量の削減 17年度比 灯油±0 ガソリン2%減 軽油2%減 LPG2%減	評価
	[実施事項] ・効率のよい配送計画 ・遠方便(埼玉羽生)(新潟長岡)を顧客便でお願いをする。 ・フォークリフトの効率的運転(LPG使用、5台のフォークの連係) ・フォークリフトの減車を検討する。(5台→4台) ・顧客営業訪問を車ではなく交通機関の利用を心がける ・LPG、ガソリン、軽油使用量をグラフ化して食堂に掲示し啓蒙をはかる。		ガソリン、軽油の使用量の使用量減少していることは評価できる。 第2工場から倉庫へのフォークリフトの行き来を減らし、1台の減車を目指す。 【評価】×
		水資源使用量の削減 17年度実績を目標	評価
	[実施事項] ・第4ラインの水の再利用を進める。 ・他ラインも水の再利用を検討する。 ・水切りを改善し、水洗槽への持ち込みを減少させる。 ・水洗水のシャワー化をすすめる。 ・めっきの水切り時間を長くし、水洗槽への持ち込みを減らす。		仕事量が増えれば、使用量も増加する。 今後も水洗槽への持ち込みを減少させる為、水切りを多くできるよう改善していく。 めっきのシャワー水洗の多様化を引き続き進める 【評価】×

廃棄物の削減	産業廃棄物の削減 17年度の実績値	評価
	<p>[実施事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スラッジ汚泥を廃棄ではなく、再生(亜鉛回収)を進める。</li> <li>・脱脂槽に油水分離装置を設置し油を回収し脱脂液のライフを延ばす</li> <li>・フィルタープレスを単式タイプから複式タイプに入れ換え汚泥の含水率を下げる。</li> </ul>	<p>仕事量が増えている為スラッジも増加した。品質維持のため廃アルカリが増えている。21ラインめっき槽のヘドロ取りを行い廃シアンが増えている。塩酸をライフを伸ばすためインヒビター添加を検討する</p> <p>【評価】×</p>
	一般廃棄物の削減 17年度実績を目標	評価
	<p>[実施事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カタログや資料は本当に必要なもの以外は受け取らない</li> <li>・裏紙の使用</li> <li>・木製パレットの破損に注意し廃棄を減らす</li> <li>・廃棄物の数量データを精度の高いものにしていく。</li> </ul>	<p>精度の高いデータより現状を把握し、削減に努める。</p> <p>【評価】×</p>
不良率の低減	めっき不良率の低減 17年度の10%減目標	評価
	<p>[実施事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品の取り扱いに注意する</li> <li>・めっきのやり直しがでた場合は生産日報に記入しそのデータから不良率を把握する。(再めっき品のデータの精度を高めるため、書き漏れのないようにする)</li> <li>・薬品の濃度管理を徹底する</li> <li>・マイクロスコープや膜厚測定器による解析を基に、改善案を検討していく。</li> </ul>	<p>21ラインで、11月、12月にトラック部品の再めっきが大量に発生した。前処理であるの脱脂液の濃度、温度管理をしっかりと行う。</p> <p>【評価】×</p>
グリーン購入		評価
	<p>[実施事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生紙100%使用</li> <li>・CO2削減対応薬品の使用(ユケン メタSFZ-300M/GR)</li> </ul>	<p>再生紙以外も検討する。排水負荷低減薬品の使用を検討する。</p> <p>【評価】○</p>
製品サービスの環境配慮	<p>[実施事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6価から3価クロメートへお客様への提案</li> <li>・ユニクロ・クロメート色以外のカラー化を進める。</li> </ul>	<p>顧客の要望を把握して当社の理念であるお客様に喜んでもらえるような対応をする。</p> <p>【評価】○</p>
次年度の取組内容		
<p>エコアクション21を認証取得して10年が経過した。2018年は近隣同業者の廃業により自動車部品の新規受注が増え生産量も増加した。それに伴い電気、ガス、水道使用量が増える結果となっている。また、水使用量についてはめっき水洗のシャワー水洗の多様化を図り節水にも力を入れたい。老化した脱脂液の廃棄は液全体を廃棄するのではなく油分の多い上澄みの液を廃棄するようにする。産業廃棄物に関しては、新たな高性能フィルタープレスの導入検討をはじめ、スラッジの含水率を低下させ絶対量の低減を図る。</p>		



VII環境関連法規制の遵守状況			確認	作成者
み直し日：2018.4.2 遵守確認日：2018.12.3			遠藤	保土田
区分	名称	義務事項	該当設備物質等	遵守評価
組織	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	・公害防止統括者の選任と届出 ・公害防止管理者の選任と届出		○
大気	大気汚染防止法	・ばい煙発生施設設置（変更）の届出 ・ばい煙量、ばい煙濃度の測定 ・事故時の措置届出		—
	フロン排出抑制法	・簡易点検の実施 フロン破壊証明書		○
水質	（水質汚濁防止法）	・特定施設設置（変更）の届出	特定施設	○
	下水道法	・排水濃度の測定・記録・事故時の措置届出		○
土壌	土壌汚染対策法	・有害特定施設の廃止時の土壌調査	シアン等	—
廃棄物	廃棄物処理法	・廃棄物置場の保管基準の順守 ・産業廃棄物の委託契約の締結 ・特管産廃管理責任者の選任と届出 ・産業廃棄物マニフェストを収集運搬／処分委託業者へ交付し回収する（電子マニフェスト） ・マニフェスト発行実績の報告 ・廃蛍光管類適正保管および処理	汚泥 廃酸 廃アルカリ 廃プラスチック 水銀製品廃棄物	○
リサイクル	家電リサイクル法	・買替、廃棄等業者引渡し時リサイクル料の支払	エアコン テレビ	○
化学物質	労働安全衛生法	・安全管理者の選任・届出 ・衛生管理者の選任・届出 ・労働安全衛生委員会の開催	50人以上	○
	特定化学物質障害予防規則	・特化物の取扱所での掲示 ・特化物を取扱う作業員への教育 ・特化物作業主任者の選任 ・局所排気装置の定期自主点検の実施 ・作業環境測定の実施 ・特殊健康診断の実施・報告	シアン クロム	○
	毒物及び劇物取締法	・業務上取扱者の届出 ・毒物劇物取扱責任者の選任 ・盗難／漏洩防止・容器への表示 ・保管施設への表示	シアン クロム	○
	P R T R 法	・指定化学物質の排出量及び移動量の把握 ・排出量及び移動量の届出 ・MSDSの常備	20人以上 1トン以上	○
地方条例	都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	・工場設置（変更）の許可 ・公害防止責任者の選任 ・適正管理化学物質の使用量等の報告	装置 廃棄物	○
地方条例	東京都下水道条例	・特定施設設置（変更）の届出 ・排水濃度の測定・記録・事故時の措置届	特定施設	○
PCB	PCB特別措置法	・保管の届出 ・保管は漏洩防止があること	PCBコンデンサ	○

関係当局より違反等の指摘は過去3年間ありません。また、近隣からの苦情はありません。

平成31年3月22日

## VIII 代表者による全体評価と見直し結果

有限会社 朝日鍍金工場  
代表取締役 遠藤清孝

エコアクション21を取得して10年が経過しました。活動の成果を求めるだけでなく、まずは社員全員で取り組むことに意義があるとの思いでスタートしました。社員それぞれがセクションごとに自分たちの出来るところから取り組みを始め、会社としてもこれまでに経験のない10年間となりました。結果はともかく社員それぞれが、エネルギーの無駄を省いていこう、会社を変革していこうという意識が芽生えたことは会社の将来にとっても、本当に良かったことと思っています。

昨年2018年は、一年を通して受注が豊富で売り上げを大きく伸ばしました。近隣のめっき工場が廃業し自動車部品を中心とした新規の顧客がふえたことが大きな要因です。このような受注の増大は、設備の稼働時間が増えるため、電気、ガス、水使用量は増える傾向になりますが、基本的には前年の実績値を目標に掲げて取り組んでいきたいと思えます。しかし、稼働時間を延ばして売り上げを増やしていただけない生産性を向上させることは常に追求していかなければなりません。売り上げは伸ばすけれども、経費は増やさないようにし、営業利益率を向上をさせることが経営にとって大事なことです。また、これまでにない新たなめっきの要請がありました。再生クランプ品のめっきのカラー化です。製品の色別で製品管理が容易になるというメリットを求めているようです。このような新たな需要にはしっかりと対応していきたいと思えます。懸念事項としては廃水処理装置の老朽化です。とくに地下ピットになっているシアアン、クロムの処理槽の地下浸透が懸念されます。各槽の液を抜いてコンクリート槽の点検を進めていきたいと思えます。また、工業用水が廃止されることが東京都議会で決定し、数年のうちに上水道に切り替わることとなります。この切り替えによりコストがどのくらい増えるのかなど、しっかりとした調査分析が必要です。6～10年間は、実質の値上がり部分は東京都で負担して頂けるという話をいただいておりますが、いつからどの程度のコスト増になるのか注視していきたいと思えます。

このように難問は山積していますがエコアクション21の活動はしっかりと取り組んでいきたいと思えます。エコアクション21の活動は会社の経営にとってもプラス面が多く、今やなくてはならないほどの必要性を感じるまでに進化しています。経営トップである私自身が先頭に立って引き続きこのエコアクション21の取り組みを力強く推し進めていきたいと考えています。